

報告書抄録

ふりがな	やしきいせきだい2ちてん・わかみやはちまんじんじやうらいせき
書名	屋敷遺跡第2地点・若宮八幡神社裏遺跡
副書名	北九州市長野津田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	北九州市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第614集
編著者名	安部和城・山口裕子
編集機関	(公財)北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室
所在地	〒803-0816 北九州市小倉北区金田一丁目1番3号 TEL093-582-0941
発行年月日	西暦2023年2月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やしき 屋敷遺跡 第2地点	福岡県北九州市 小倉南区長野本町二丁目2222-1他	40100	3148	33° 49' 43".65	130° 54' 56".24	20200908～ 20210128・ 20210603～ 20210730・ 20211004～ 20211029	9,140	北九州市長野 津田土地区画 整理事業
わかみやはちまんじんじやうら 若宮八幡神社裏 遺跡	福岡県北九州市 小倉南区長野本町二丁目2222-1他	40100	3083	33° 49' 44".32	130° 55' 02".66	20210827～ 20211029	2,090	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
屋敷遺跡 第2地点	集落跡	縄文時代～中世	遺物包含層・土坑・掘立柱 建物・溝状遺構・自然流路・ 矢板杭列・柱穴等	縄文土器・弥生土器・須 恵器・土師器・石器・木 製品・瓦	ヒスイ製勾玉・銅鏃・「門司」銘 刻印瓦出土
若宮八幡神社裏 遺跡	集落跡	縄文時代～中世	溝状遺構・自然流路・土坑・ 柱穴など	縄文土器・弥生土器・古 墳時代～古代の土師器・ 須恵器・石器・矢板杭・ 木製品など	扉、案、鳥形木製品などの木製品 が出土している。

要約	内容
	<p>屋敷遺跡第2地点1区では丘陵裾部から低地に向かう地形を検出し、低地部では厚さ1.5～2.0mの遺物包含層が堆積していた。各層から大量の遺物が出土し、最下層である粗砂層(Y-8)からは夜白式・板付式土器が相伴して出土している。Y-2層からは平安期に比定される古瓦が多く出土しており、表面には格子目叩きと「門司」の刻印が見られる。また、Y-3層上面では流路を検出し、5世紀中頃～後半の須恵器と土師器が出土した。Y-3層からは古墳時代前期の古式土師器(小型器種)がまとめて出土しており、完形品も多く出土している。その他、特筆される遺物として、銅鏃や勾玉、ソリ状の木製品(農具)が出土している。</p> <p>2区では調査区西側に隣接する丘陵裾部を巡る自然流路が検出され、大量の粗砂と流木を含む洪水堆積層によって埋没していた。粗砂層からは大量の縄文時代晩期から弥生時代前期の土器や石器が出土した。この洪水層の上部には暗青色粘質土が堆積しており、この面に矢板列や杭列群が打ち込まれていた。暗青色粘質土からは、弥生時代前期の土器が出土しており、洪水による自然流路の埋没後、湿地状を呈した部分を利用して矢板列や杭列群が形成されたものと考えられる。</p> <p>3区は2区の南側にあり、2区で確認された暗青灰色粘質土層の上面に複数の溝状遺構が形成されている。これらには遺物がほとんど含まれていない。また、丘陵に近い北側ではピットが数多く確認されているが、これらからも遺物はほとんど出土していない。</p> <p>4区では灰色砂混じり粘質土(古代～中世)、褐灰色粘土(弥生時代中期～古代)、砂層(縄文時代早期～晩期)の遺物包含層を確認した。また、褐灰色粘土の下位にあるオリブ灰色粘土の上面には、丘陵に近い西側を中心に遺構が確認されている。また、丘陵裾部に併行して、幅約2mの溝状遺構を検出し、これより15世紀後半～16世紀中頃と思われる青花碗が出土した。</p> <p>若宮八幡神社裏遺跡では屋敷遺跡と同様に自然流路の堆積層があり、この上面に古墳時代～古代の溝状遺構が確認された。この溝状遺構は2区と3区で確認され、若宮八幡神社が位置する低丘陵を取り囲むように配置されていると考えられる。なお、この溝状遺構からは須恵器の器台や土師器碗、木製扉、滑石製の孔門板など、多くの遺物が出土している。また、3区の南端部では南西から北東方向に延びる自然流路と思われる溝状遺構が確認され、この内部から細めの丸太材を使って作られた木組み遺構が確認された。また、付近からは案や鳥形木製品などの木製品が出土している。</p>